

各火山の 4 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

15 日から 18 日にかけて、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする規模の小さな地震が増加したが、噴煙の状況や地殻変動に特段の変化はなかった。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口南側の地下では、2015 年 3 月中旬以降温度が上昇している可能性が考えられる。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とかしだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

4 日から 7 日にかけて火山性地震が一時的に増加したが、9 日及び 13 日に実施した上空からの観測（北海道、国土交通省北海道開発局の協力による）では、62-2 火口や大正火口及びその他の火口に特段の変化はなく、9 日に実施した現地調査においても火山ガスの放出量に変化はなかった。

ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量および地震回数の増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たろまえさん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

うすざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

19 日から 21 日にかけて、有珠山北側山腹のやや深い所（深さ約 6 km 付近）を震源とする微小な地震が一時的に増加したが、その後少ない状態で経過した。また、その他のデータにも特段の変化はみられず、噴火に至る兆候は認められない。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（平常）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（平常）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（平常）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

えさん 恵山 [噴火予報（平常）]

【東北地方】

いわたさん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は静穏に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

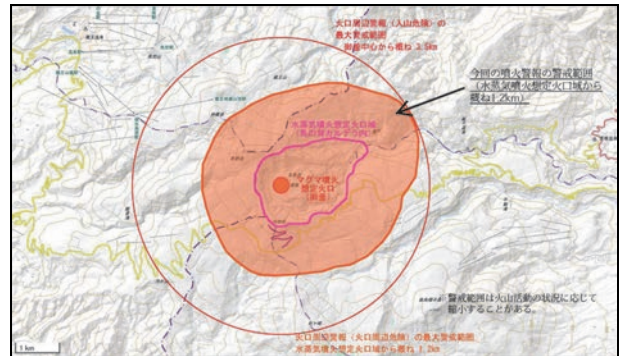
地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、女岳では、2009 年から拡大している噴気や地熱域が引き続きみられており、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

ざおうざん 蔵王山 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

←13 日に噴火予報（平常）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げ

7 日以降、御釜付近が震源と推定される微小な火山性地震が増加し、火山性微動が発生するなど火山活動が活発となった。今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、13 日 13 時 30 分に火口周辺警報を発表し、噴火予報（平常）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げた。4 月の火山性地震の回数は 319 回と 2010 年 9 月の観測開始以降最多となった。また、継続時間が短く、規模の小さな火山性微動が 4 回発生した。

想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね 1.2km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰や小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。



蔵王山 小規模な噴火について警戒が必要な範囲
橙領域内：想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね 1.2km の範囲（宮城県提供資料）

あづまやま 吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。16 日に実施した現地調査では、3 月 16 日に新たに確認した大穴火口外の北西側の弱い噴気があった領域で、噴気や地熱域は認められ

なかった。2013 年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認した。大穴火口付近の浅い所と推定される火山性地震は 30 回発生し、前期間（81 回）に比べて減少した。

浄土平の傾斜計¹⁾では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側上がりの変動が継続している。

GNSS²⁾連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山南山腹観測点が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆すると考えられる。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口から概ね 500m の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん

岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやけやま

秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちよukaiさん

鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま

栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま

安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ばんたいさん

磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

くまづしらねさん

草津白根山 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8 月 20 日以降やや少ない状態で経過している。2015 年 1 月以降は一時的な火山性地震の増加もみられている。

地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられる。また、全磁力観測によると 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま

浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

16 日及び 23 日に実施した現地調査では、山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 60～90 トン（前回 3 月 27 日：70 トン）と少ない状態であった。

このほか、火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

みだかはら

弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発であるが、2012 年 6 月以降の現地調査で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されているため、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

おんたけさん

御嶽山 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

御嶽山の火山活動は低下してきており、2014 年 9 月 27 日と同程度、またはそれを上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 200～900m で経過している。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていない。

新たな火口列の中心から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾と火砕流に警戒が必要である。これに加えて南西側（地獄谷方向）では火口から概ね 2.5km まで火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

はこねやま

箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

26 日 14 時頃から大涌谷から神山付近の浅い所を震源とする火山性地震が増加している。低周波地震や火山性微動は観測されていない。

神奈川県温泉地学研究所の傾斜計¹⁾による地殻変動観測では、今回の活動に関連するとみられるわずかな変化が観測されている。気象庁が湯河原鍛冶屋に設置している体積ひずみ計⁹⁾や国土地理院の地殻変動観測では、今回の活動と

関連する明瞭な変化はみられていない。

箱根山では、2001 年 6 月から 10 月にかけて火山性地震が多発し、国土地理院等の地殻変動観測で山体の膨張を示す変化がみられ、噴気活動が活発化した。

現時点では、噴気等の状況に特段の変化はみられず、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山性地震は少ない状態で経過している。

GNSS²⁾ 連続観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められないが、山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

16 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 200 トン（前回 3 月 23 日：400 トン）と、やや少ない状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

GNSS²⁾ 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

火口周辺（雄山環状線内側）に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性は低くなっているが、噴煙活動は続いており火口近傍に火山灰等が噴出する可能性がある。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。

22 日に海上自衛隊が、23 日と 27 日に海上保安庁が上空からの観測を実施し、第 7 火口での噴火活動の継続を確認した。

27 日の観測では、第 7 火口で断続的な噴火が継続していた。噴煙は白色で、噴煙高度約 450 m で南西方向へ流れていた。火砕丘北東斜面に形成された 1 ヶ所の溶岩流出口から溶岩が流出し、火砕丘北側に溶岩原を形成していた。溶岩原の北東端では溶岩トンネルを経由して一条の溶岩流が北東方向に流下し、海岸線に達していた。西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある断層やクラックは認められなかった。変色水域は、北側海岸線に薄い黄緑色で幅約 200～300m に分布していた。西之島南海丘付近海域に変色水等の特異事象は認められなかった。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ や水面を高速で広がるベースサージ⁴⁾ 等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがある。

西之島の中心から概ね 4 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。

24 日に継続時間が 70 秒の火山性微動が発生した。GNSS²⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015 年 1 月中旬頃から、隆起速度が上がっていたが、2 月上旬頃から鈍化している。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

14 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められていない。

福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動による

とみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報（平常）]

にいがたやけやま
新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

やけだけ
焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

はくさん
白山 [噴火予報（平常）]

のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報（平常）]

いずとうぶかさんぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

にいしま
新島 [噴火予報（平常）]

こうづしま
神津島 [噴火予報（平常）]

はちじょうしま
八丈島 [噴火予報（平常）]

あおがしま
青ヶ島 [噴火予報（平常）]

【九州地方及び南西諸島】

あそさん 阿蘇山 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、断続的に噴火が発生している。23、24 及び 26 日には、灰白色の噴煙が最高で火口縁上 1,500m まで上がった。噴火に伴い、熊本県、大分県、宮崎県の一部の地域で降灰があったと推定される。

二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,500 トン（3 月：800～3,700）と多い状態で経過した。

火山性微動は、概ね振幅の大きな状態で継続し、噴火に伴う空振を時々観測した。

GNSS²⁾ 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは、2015 年 3 月頃から停滞している。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな噴石³⁾ が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾ にも注意が必要である。

まりしまやま しんもえだけ 霧島山（新燃岳） [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

3 月下旬以降、新燃岳火口直下を震源とする火山性地震がやや増加し、月回数は 92 回（3 月：139 回）となった。GNSS²⁾ 観測によると、

新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃頃から伸びの傾向が見られていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ に警戒が必要である。風下側では火山灰だけではなく小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

まりしまやま こうげん いおうやま しゅうへん 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [火口周辺警戒（火口周辺危険）]

えびの高原（硫黄山）周辺では、引き続き火山性地震が時々発生している。

GNSS²⁾ 連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013 年 12 月頃からみられた伸びの傾向は、やや鈍化している。

えびの高原（硫黄山）周辺では、表面現象には異常は見つかっていないが、地震活動が継続しているため、今後の推移に注意する必要がある。また、噴気や火山ガスなどが突然噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性がある。

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾ に注意が必要である。

さくらじま 桜島 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が 112 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。

17 日 02 時 49 分の爆発的噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾ が 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800m）まで達した。18 日 05 時 17 分と 28 日 09 時 40 分の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の東および南東側へ約 500m 流下した。噴煙の高さの最高は、24 日 09 時 16 分の爆発的噴火による火口縁上 4,000m であった。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震は、3 月 31 日から 4 月 2 日にかけて一時的にやや増加した。震源は、3 月 31 日に震度 1 の地震が発生した桜島南西部の海拔下 6～10km 付近で主に発生したほか、南岳直下の海拔下 2～3 km 付近に分布した。桜島島内の傾斜計¹⁾、伸縮計⁶⁾ 及び GNSS²⁾ では、2015 年 1 月以降、山体が隆起・膨張する変化が観測されて

いる。今後、2012年7月24日及び2013年8月18日の噴火以上の多量の火山灰を噴出する可能性がある。また、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟むGNSS²⁾連続観測の基線では、長期的に始良カルデラ深部の膨張を示す伸びの傾向がみられる。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島さつまいおうじま【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では火山ガスに注意が必要である。

口永良部島くちのえらぶじま【火口周辺警戒（噴火警戒レベル3、入山規制）】

口永良部島では噴火は発生しなかった。火山性地震が時々発生し、火山ガスは多い状況で経過しており、火山活動は活発な状態が継続している。

口永良部島の新岳では、前月に引き続き夜間に高感度カメラで火映⁷⁾を時々観測した。気象庁機動調査班（JMA-MOT）による現地調査では、引き続き新岳火口の西側割れ目付近及び南西斜面の噴気地帯を確認したほか、赤外熱映像装置による観測では、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域内で2015年2月頃から温度の上昇が認められている。

18日に実施した現地調査及び7日から26日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900～2,600トン（3月：1,000～3,700トン）と多い状態で経過した。

口永良部島では、火山活動の高まりがみられており、今後、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火に移行する可能性がある。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴

う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

諏訪之瀬島すわのせじま【火口周辺警戒（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

御岳火口では、爆発的噴火が2回発生するなど、活発な火山活動が継続した。諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

鶴見岳つるみだけ・伽藍岳がらんだけ【噴火予報（平常）】

九重山くじゅうざん【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

雲仙岳うんぜんだけ【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

霧島山きりしまやま（御鉢）おぼち【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象。人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険である。
- 5) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 6) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。
- 7) 火映は赤熱した溶岩や高温のガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象である。

表 2 平成 27 年 4 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 53 号～56 号	3 日、10 日、17 日、 24 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。 現地調査の状況。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	降灰予報	17 日 10 時 42 分 17 日 14 時 15 分 17 日 18 時 55 分 18 日 02 時 55 分 18 日 05 時 36 分 18 日 08 時 36 分 18 日 12 時 38 分 21 日 07 時 06 分 21 日 17 時 02 分 21 日 17 時 17 分 23 日 05 時 54 分 23 日 11 時 43 分	噴火に伴い、降灰が予想される地域を発表。
		降灰予報（速報）（23 日 13 時から発表開始）	23 日 16 時 57 分 23 日 19 時 05 分 23 日 20 時 54 分 23 日 21 時 54 分 23 日 23 時 36 分 24 日 04 時 44 分 24 日 05 時 45 分 24 日 07 時 53 分 24 日 08 時 30 分 24 日 09 時 29 分 24 日 11 時 26 分 24 日 19 時 42 分 25 日 10 時 40 分 25 日 11 時 36 分 25 日 20 時 37 分 26 日 05 時 10 分 26 日 11 時 37 分 26 日 13 時 11 分 26 日 18 時 33 分 26 日 18 時 44 分 26 日 20 時 35 分 27 日 07 時 29 分 27 日 14 時 34 分 27 日 17 時 26 分 27 日 19 時 31 分 28 日 05 時 38 分 28 日 11 時 05 分 29 日 19 時 25 分 30 日 01 時 51 分 30 日 02 時 13 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	降灰予報(詳細) (23日 13時から発表開始)	23日 17時 15分 23日 17時 50分 23日 19時 20分 23日 22時 12分 23日 23時 50分 24日 00時 30分 24日 04時 57分 24日 06時 00分 24日 09時 40分 24日 17時 10分 24日 18時 50分 24日 20時 18分 24日 20時 35分 24日 21時 23分 25日 11時 00分 25日 12時 00分 25日 21時 00分 26日 05時 30分 26日 11時 53分 26日 13時 26分 26日 18時 43分 26日 19時 02分 26日 21時 00分 27日 07時 47分 27日 14時 50分 27日 17時 46分 27日 19時 47分 27日 20時 29分 28日 05時 57分 28日 11時 31分 29日 19時 47分 30日 02時 18分 30日 02時 48分	噴火発生から6時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
			解説情報第 29 号～36 号	
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報第 28 号～35 号	3日、6日、10日、 13日、17日、20日、 24日、27日 16時 00分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
蔵王山	噴火予報(平常)	解説情報第 1 号～3 号	9日 17時 40分 10日 15時 20分 11日 16時 00分	7日以降増加した火山性地震状況、9日に発生した火山性微動の状況。上空からの調査の状況。
		火山活動解説資料	10日 17時 00分	
	火口周辺警報 (火口周辺危険)	火口周辺警報	13日 13時 30分	7日以降、火山性地震が増加し、火山活動は活発となったことから、今後、小規模な噴火が発生する可能性があると判断し、噴火予報(平常)から火口周辺警報(火口周辺危険)に引き上げ。
		火山活動解説資料	13日 15時 00分	
		解説情報第 4 号	13日 16時 00分	
		解説情報第 5 号～18 号	14日～27日 16時 00分	
火山活動解説資料	18日 16時 30分	18日に実施した上空からの観測の状況。		
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 24 号～27 号	6日、13日、20日、 27日 16時 00分	噴煙・傾斜計・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 16 号～19 号	3日、10日、17日、 24日 16時 00分	傾斜計・地震回数等火山活動の状況。

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 26 号～33 号	3 日、6 日、10 日、 13 日、17 日、20 日、 24 日、27 日 16 時 00 分	噴煙等噴火活動の状況。火山性微動・空振の状況。現地調査の状況。
		降灰予報	23 日 12 時 36 分	噴火に伴い、降灰が予想される地域を発表。
		降灰予報（速報）（23 日 13 時から発表開始）	24 日 10 時 00 分 26 日 10 時 56 分 26 日 19 時 47 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）（23 日 13 時から発表開始）	24 日 09 時 27 分 24 日 10 時 20 分 24 日 15 時 25 分 26 日 11 時 25 分 26 日 20 時 20 分 26 日 21 時 30 分	噴火発生から 6 時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
霧島山（えびの高原（硫黄山）付近）	火口周辺警報 (火口周辺危険)	解説情報第 26 号～33 号	3 日、6 日、10 日、 13 日、17 日、20 日、 24 日、27 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況
霧島山（新燃岳）	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 4 号、5 号	3 日、6 日 16 時 00 分	火山性地震の状況等火山活動の状況。
雌阿寒岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 平常)	火山活動解説資料	16 日 17 時 50 分	15 日から増加した火山性地震の状況等火山活動の状況。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 平常)	火山活動解説資料	5 日 09 時 30 分 10 日 10 時 30 分	4 日から増加した火山性地震の状況等火山活動の状況。現地調査、上空からの観測の状況。

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

阿蘇山、桜島、諏訪之瀬島においては、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。